

独立行政法人国立病院機構

横浜医療センター

〒245-8575 横浜市戸塚区原宿 3-60-2

TEL 045-851-2621 FAX 045-853-8359

◆ 関連施設勤務者

統括診療部長	関戸 仁 (昭.58)
外科医長	松田 悟郎 (平.5)
外科医師	齊藤 修治 (平.5)
	清水 哲也 (平.9)
	稲垣 里紗 (平.21)
	杉政奈津子 (平.22)
外科レジデント	松木 裕輝 (平.23)



国立病院機構横浜医療センターは、新病院での診療を開始して4年目に入りました。

当センターは横浜市南西部地域中核病院に指定され、救命救急センター、ICU、CCU、SCU、小児救急、周産期センター、NICUを備えた地域の急性期型高度総合病院として機能しています。今年、神奈川県がん診療連携指定病院に認定されました。

診療面は、関戸統括診療部長の御指導の下、計7人のスタッフが2チームに分かれて診療を行っています。2013年の手術件数は、年間617件と前年度並みでしたが、大きな手術や救急疾患の手術が増加しました。主な手術件数は、腹臥位胸腔鏡下食道切除再建8例↑、胃癌切除51例、結腸直腸癌切除91例、肝切除16例、膵頭十二指腸切除19例↑、腹腔鏡下胆摘73例↑、虫垂切除72例↑、鼠径ヘルニア根治術77例でした。特に膵頭十二指腸切除術の増加が目立ち、同じ週の月水金と連続で施行したこともあり、これは、関戸先生が赴任してからPD施行100例を超え、膵癌術後5年生存者も出てきており、地域の先生方に十分名声が広まったからだと思います。今年、腹腔鏡下大腸切除術のスペシャリストである齊藤修治先生が赴任し、ラパコロンが30件と倍増しました。術後の回復が早く、高齢患者さんに対してもその有用性をとても実感しています。

当院では若手医師の執刀比率が60%を超え、小手術から大手術まで幅広く執刀経験ができることも特徴です。4月に赴任した新人外科医は、関戸プロにちょっといいかなと言われながらラパコレの修練を積み始めます。国立病院機能内で開催される腹腔鏡セミナーにも参加して腕を磨いています。昨今外科入局者が減少している現実があり、研修医の先生たちに外科の楽しさを伝えるべく、開腹操作、小手術の術者やラパコレで胆嚢漿膜切開、CUSAで肝切離を経験してもらっています。当院では、色々幅広く消化器外科疾患を経験でき、キャラの濃い人や面白すぎる患者さんが多く生息し、外科研修病院としてうってつけだと思います。実際、当院研修医から佐々木真理、田中優作、中山岳龍、足立祥子、朴峻、山田淳貴の各先生が入局されています。外科医仲間を増やせるよう工夫していきたいと思っています。

最上階の外科病棟の窓から富士山の美しい姿を眺めることができた朝は、とてもすがすがしい気持ちになり、一日の活力をもらうことが出来ます。今年も地域で選ばれる病院になるべく、スタッフ一同協力しあって日々診療を頑張っていきたいと思っています。同門会の先生方には今後とも御指導、御協力の程どうぞよろしくお願い申し上げます。

(文責：松田悟郎)

伊東市民病院

〒414-0055 伊東市岡 196-1

TEL 0557-37-2626 FAX 0557-35-0631

◆ 関連施設勤務者

副病院長・外科部長 佐藤 芳樹 (昭.59)

副診療部長・外科科長 神谷 紀之 (平.4)

医 師 高橋 直行 (平.20)

平成25年は、当院にとって大きな節目となる年でした。国立伊東温泉病院時代から使われてきた旧病院建物の老朽化に伴い、3月1日、新棟へと完全移転しました。旧病院から少し坂を下ったところにある、読売ジャイアンツが長嶋監督時代に伊東キャンプをおこなった旧伊東球場跡地の新病院へ引っ越しを行い名称も「伊東市民病院」と改め新スタートを切りました。建物は地上5階の免震構造で、東海地震・東南海地震で想定される津波からは被害を免れる（であろう）高台に位置しています。昨年内にハイケアユニット8床、回復期リハ病棟50床もオープンし、250床の急性期病院として、経営の方もようやく軌道に乗ってきたところです。

国立病院時代から勤務してこられた先生方にはお馴染



外来メイン通路



新病院外観

みの“岩風呂”は移転直前に火事で消失してしまいましたが、院内職員用風呂や企業の研修施設を改築して新設した独身寮は、源泉かけ流しとなっております。

今年度の外科スタッフは、佐藤芳樹部長兼副院長、城野晃一先生（京都府立医大）、神谷紀之、高橋直行の4名でした。他に非常勤として毎週月曜形成外科（順天堂大学、午前手術・午後外来）、甲状腺外来（毎週水曜午前・金曜午後）の先生方とともに外科診療をおこなっております。診療の変化としては、大腸癌に対する鏡視下手術の増加と、病理診断医師が常勤になったことが挙げられます。特に後者は私たちが熱望していた事で、消化管の癌手術や乳癌のセンチネルリンパ節生検の術中迅速診断が可能になりました。

新年度は災害拠点病院・静岡県地域がん診療連携推進病院の指定を受ける予定です。静岡県東部地区での、救急疾患やがん診療における当院への期待は増々大きくなっています。また同時に若手外科医の育成の場としても、役割の重大さをひしひしと感じております。ハードは整いましたがソフトが追いついていないと言われるよう、外科診療のクオリティを高めてまいりたいと思います。よろしくお願いいたします。

（文責：神谷紀之）

横浜市立市民病院

〒240-0062 横浜市保土ヶ谷区岡沢町 56
TEL 045-331-1961 FAX 045-332-5599

◆ 関連施設勤務者

副病院長	杉田 昭 (昭.54)
消化器外科担当部長	高橋 正純 (昭.58)
乳腺外科長・ 癌検診センター診断担当部長	石山 暁 (昭.58)
I B D科長	小金井一隆 (昭.61)
消化器外科長	望月 康久 (昭.62)
検査部長	千葉 泰彦 (平.2)
乳腺外科医長	鬼頭 礼子 (平.9)
I B D副医長	辰巳 健志 (平.12)
医 員	中川 和也 (平.17)
後期研修医	朴 峻 (平.23)

横浜市民病院は、現在の病院に建て替えられてから20年以上経過したため、病院の老朽化、狭隘化が現実問題となってきました。数年前より移転や建て直しをふくめた新病院建設プロジェクトがスタートし移転候補地が4箇所に絞られましたが、昨年12月、三ツ沢公園南側の野球場とその周辺、そこに隣接する古河電工の社宅の土地を移転候補地として、用地取得に向けた同社との交渉を本格的にスタートしました。また、候補地の選定と並行して、「横浜市立市民病院再整備基本計画骨子」に基づき、現在、基本計画（素案）を作成中です。

さて平成25年の外科は、3月末で鬼頭文彦院長が定年退職し、杉田昭副院長のもと、以下消化器外科4人（大学ローテート1人）、炎症性腸疾患外科4人（大学ローテート1人）、乳腺外科2人（大学ローテート1人）のスタッフと4人の後期研修医（大学ローテート1人）、2ヶ月毎にローテートする3人の初期研修医で診療を行いました。外科一同、外来、病棟、手術、救急診療と日夜仕事に励んでいます。



さて、外科が消化器外科、乳腺外科、炎症性腸疾患外科の3つに別れ、5年経過しました。2013年の総手術件数は、外科全体では前年並みで1200例をこえました。内訳は消化器外科約700例、炎症性腸疾患外科約400例、乳腺外科約100例でした。

消化器外科では、大腸癌手術例はやや減少しましたが、腹腔鏡下の手術の割合は46%と前年より増加しました。胃癌手術例は減少しましたが鏡視下手術は増加し、肝胆膵領域では膵頭十二指腸切除術を21例、腹腔鏡下肝切除術を4例行いました。乳腺外科は、センチネルリンパ節生検手術の導入や地域連携バスの運用で診療実績を増加させました。炎症性腸疾患外科は、関東圏はもとより全国から患者を受け入れ、年々患者数、手術件数とも増加しています。

緊急手術は236例で前年とほぼ同数でしたが、急性虫垂炎は昨年の79例から97例と増加しました。その他、急性腹症は例年並みで腸閉塞、穿孔性腹膜炎手術などでした。予定手術が多く手術室も8室と限られている現状では、この程度が限界と思われます。

今後も地域中核病院として周辺の医療機関と連携を密にし、より一層地域医療に貢献していきたいと思えます。これからも、ご指導ご支援の程、よろしくお願い申し上げます。

（文責：望月康久）

藤沢市民病院

〒251-8550 藤沢市藤沢 2-6-1

TEL 0466-25-3111 FAX 0466-25-3545

◆ 関連施設勤務者

院長	城戸 泰洋 (昭.50)
副院長	仲野 明 (昭.53)
診療部緩和ケア科主任部長	江口 和哉 (昭.58)
呼吸器外科部長	吉本 昇 (平.5)
外科専門医長	山岸 茂 (平.7)
	樺山 将士 (平.14)
外科主任医師	泉澤 祐介 (平.16)
	原田 真吾 (平.20)
外科医員	笠原 康平 (平.21)
	山本 淳 (平.23)



平成25年度における藤沢市民病院の最も大きな変化は、平成26年1月2日より運用開始となった電子カルテです。当院で採用したのはNEC社製品です。皆様もご存じと思いますが非常に使いにくいです。病棟では夜遅くまでコンピュータと格闘する看護師さんの姿が多く見られ、医師も悪戦苦闘しています(写真1)。特に持参薬システムやクリニカルパスについては問題点が多く、改善に向けてNECと交渉している毎日です。

もう一つは平成25年8月から始まった本格的な新東棟建設工事です(写真2)。まず病院北側にあった職員クラブ、旧結核病棟、自転車置き場などが取り壊され、10月ごろからは基礎工事が開始されました。年明けの1月からは建物の核となる柱が地中に建てられ(写真3)、作業が進んでいます。そこで感心するのは、各種作業員の運転手がクレーンやシャベル、ドリルといった機械を実にうまく操るということです。筆者は腹腔鏡手術を多く手掛けておりますが、あの運転手達がラパロをやったらすごく上手なのではと想像しています。建設工事が順調に

進めば、平成27年度に新東館(写真4)が使用可能で診療開始が楽しみなところですが、外科病棟は西棟なので今回の新東棟とは無縁であり、外来部門は新しくなりますが複雑な心境です。

院内の体制は、城戸院長、吉本が呼吸器外科は不変で、仲野副院長、松尾(10月まで)、山岸、樺山、泉澤、原田が外科、消化器外科の診療を担当し、笠原、山本が呼吸器外科と外科、消化器外科をローテートしました。今年度の先生方も昨年度に負けず劣らず個性的で、楽しく、時には忙しくつらい時もありますが大きな事故もなく診療してきました。江口先生は緩和医療科として、外来や院内の緩和医療チーム長として診療されています。

主な手術件数は乳癌98件、呼吸器外科90件、食道癌9件、胃癌72件、結腸癌99件、直腸癌37件、肝癌6例、転移性肝癌10例、胆道癌9例、膵癌9例、胆石症96例、虫垂炎59例、鼠径ヘルニア139例でした。大腸癌に対する腹腔鏡手術は104件(76.4%)となり、年間100件を突破しました。そのうち85件は樺山、原田が執刀し、腹腔鏡下大腸手術を経験してもらっています。学術関連では、学会発表は37演題(シンポジウム1演題、ワークショップ



写真1



写真2



写真3

2演題、要望演題8演題)、論文発表は3題と意欲的に取り組んでおります。また、消化器内科、外科合同カンファレンスを地域の開業医の先生方と2か月に一度院内で開催しており、患者さんの情報交換と症例検討会を活発に行っています。さらに新しい試みとして、近隣病院との連携、親睦を目的に「湘南colon cancer conference」を開催し、臨床腫瘍科の市川先生を招いて最新の大腸癌化学療法についてご講演いただき、地域医療の発展に努めています。

経営については、この数年で初めて外科と消化器外科が科別収益でNo.1となり、今までずっと1位だった小児科(小児救急、N-ICUを含む)を追い抜き、院内トップを獲得しました。これは腹腔鏡手術が大幅に増加したことと、肝胆膵手術で保険点数が高い手技料を請求できたことが主な増収につながったと考えています。だからといって今のところ現場の外科医師にはなんのメリットもないのは、言うまでもありません。なんとかこの辺の業務成績を考慮して待遇の改善があれば、もっとモチベーションが上がり、より気持ちよく働けるのと思うところですが、公立病院であるためか、それは望めないのが



写真4

悲しいところです。

地域医療支援病院、地域がん診療連携拠点病院、救命救急センター、周産期救急医療中核病院、災害拠点病院として、地域医療に貢献し、高水準の医療を提供できるよう努力してまいりますので、同門の先生方の益々のご指導、ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

(文責：山岸 茂)

横須賀市立市民病院

〒240-0195 横須賀市長坂 1-3-2

TEL 046-856-3136 FAX 046-858-1776

◆ 関連施設勤務者

管理者・病院長	久保 章(昭.51)
副病院長・外科診療部長	亀田久仁郎(昭.63)
外科科長	長嶺弘太郎(平.5)
医 員	宮本 洋(平.17)
	森 康一(平.21)
	三宅 益代(平.21)

連続小説 『北から来た男』

その男は突然やってきた。横須賀市立市民病院のホームページに載っている後期研修医随時募集という一文に誘われて面接にやってきたその男は、中肉中背でこれといった特徴のないロッチの中岡に似た男であった。鳥取出身と言っていたが、少し日本語が不自然なところがあるのを面接官の亀田は聞き逃さなかった。当院への志望理由を聞くとその男は『横須賀には米軍基地があって、

アメリカを身近に感じられるから』と答えた。よく分からない理由だとは思いますが怪しいと思ったが、熱意だけは感じたためつい採用してしまった。それが7年前のことだった。最初は何もできない男だった。しかし彼はまじめな男であった。手術の前にはきちんと勉強し、自分の入っていない手術の時には見学することを怠らなかった。患者さんにも優しくかった。めきめきと実力をつけていった彼はついに外科専門医の資格を取得した。そんな彼をねぎらおうと亀田はある日彼を食事に誘った。三浦海岸のうまい魚を食わせる店だ。酒が進むにつれて彼は思い詰めた表情で語り始めたのだった。

『かめた先生』

『どうした、藤井』

『ぼく、先生に隠していたことあるよ。』

『何を?』

『実はぼく、本当は北のスパイなのよ。この病院は近くに葉山の御用邸や自衛隊の駐屯地もあるし、ちょっと行けば米軍基地もある。海も近いし活動するには最適だと

思ったのよ。』

『うすうす気づいてたよ。でもおまえの仕事ぶりを見ているうちにそんなの関係なく思えてきたよ。』

『ぼくもなのよ。最初はこまめに活動していたけど、だんだん仕事が楽しくなってきて。医局のローテーションで来る先生達もいい人ばかりで、ぼく何だかとても申し訳無くなってきて……。おまけに論文ももう4編も書かせてもらったよ。』

『それはおまえの実力だよ。外科専門医おめでとう。あとは消化器外科の専門医だな』

『かめた先生。ぼくがんばるよ。この病院は本当にいい病院だよ。みんなやさしいし上の先生達も面倒見がいいし。ぼく本当はずっとここに居たいよ』

『ありがとう。でもそうもいかないのはわかってるよ。帰って来いって命令が出たんだろ。今まで本当に助かったよ。』

『かめた先生……。先生には隠し事できないね。』

金目鯛のしゃぶしゃぶを食べながら湯気の向こうで涙ぐむ彼であった。

翌日、彼は何も言わずに去って行った。一枚の写真を残して……

つづく



(文責：亀田久仁郎)

横浜労災病院

〒222-0036 横浜市港北区小机町 3211

TEL 045-474-8111 FAX 045-474-8323

◆ 関連施設勤務者

乳腺外科部長 千島 隆司 (平.3)

乳腺外科医師 山本 晋也 (平.16)

乳腺外科専任医 足立 祥子 (平.22)

横浜労災病院乳腺外科は、地域がん診療連携拠点病院の医療態勢整備として、2012年4月から乳がんの精密検査から最新治療までを一括して行う「専門診療科」として開設されました。2年目の2013年度は千島 隆司、山本 晋也、足立祥子の3名で診療にあたっています。当院は、横浜市北部医療圏の中核病院で唯一の日本乳癌学会認定施設であり、2013年1月から12月までの一次検診を除いた新規紹介患者数は739名でした(図1)。それに伴って手術症例も増加しており、乳腺外科開設前(2011年)には63例だった手術症例も、2013年は悪性腫瘍の手術が187例、良性腫瘍・リンパ節切除などの手術を含めると236例まで症例数が増加しています(図2)。これ以外にも、外来手術(観血検査)としての吸引組織診(マンモトーム・バコラ)を90例、乳腺腫瘍の緊急手術を4例に行なっています。このように多くの症例をご紹介します



ださる地域医療機関の先生方には深く感謝しております。また、2013年4月からは形成外科専門医が横浜市立大学形成外科学から派遣されるようになったため、当院でも乳房切除に伴う自家組織(深下腹壁動静脈穿通枝皮弁、広背筋皮弁など)による一次一期再建が可能となりました。さらに7月以降は人工乳房・エキスパンダーによる再建術も保険診療として承認されたため、2013年は19例(全乳房切除症例の18%)で一次乳房再建を行なうことができました。この739名の新患、236例の手術、90

例の観血検査を3名で対応しており、昼食をとる時間もない中で大奮闘してくれている山本先生、足立先生には大変感謝しております。

手術以外でのトピックスとしては、乳がん看護認定看護師による看護外来、乳がん体験者コーディネーターによるピアサポート外来、リンパ浮腫療法士によるリンパ浮腫外来も開設して、乳腺外科と緊密に連携しながら乳がん患者のメンタルケア、社会復帰支援、合併症管理にも力を注いでいます。当院は、最新の診断機器による一次・二次予防からオンコプラスティックサージャリー、EBMに基づいた集学的治療、他施設共同臨床試験、患者目線での患者サポート（サイコオンコロジー）まで「がん診療の基本」を全て習得できることが特徴です。

横浜労災病院乳腺外科は、「病を診る治療（cure）だ



けではなく、人を見る診療（care）を大切にする」を診療理念に、今後も新しいことにチャレンジしながら、神奈川、そして日本トップレベルの乳がん診療施設を創るために頑張っていきたいと思います。

（文責：千島隆司）

図1 年間新規紹介患者数

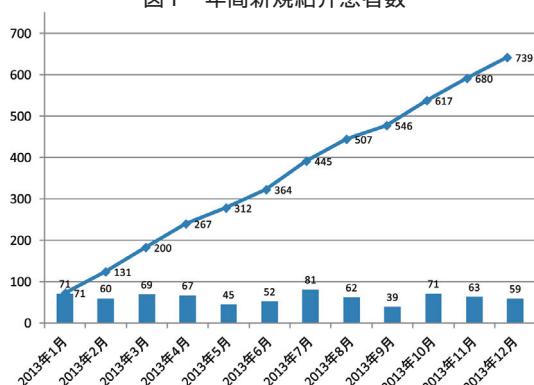
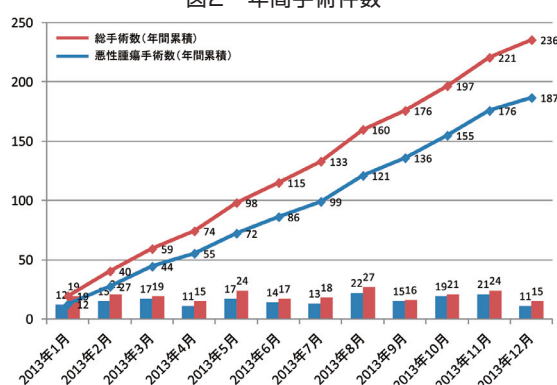


図2 年間手術件数



横須賀共済病院

〒238-8558 横須賀市米ヶ浜通 1-16

TEL 046-822-2710 FAX 046-825-2103

◆ 関連施設勤務者

院長代理	長堀 薫 (昭.53)
外科部長	舛井 秀宣 (昭.62)
医 長	盛田 知幸 (平.10)
	南 裕太 (平.13)
	渡邊 純 (平.13)
	高川 亮 (平.15)
	本間 祐樹 (平.16)
医 員	後藤 晃紀 (平.20)
	中山 岳龍 (平.20)
	久保 博一 (平.21)
	遠藤 千穂 (平.22)



横須賀共済病院では、横須賀市、三浦半島における地域医療支援病院・がん診療連携拠点病院として急性疾患からがん診療までスタッフ一同診療に励んでおります。

今年度は2013年9月に長堀薫先生が院長代行として山梨より戻って来られ、外科全体がさらに活気づいております。特に「若手外科医が楽しんで仕事をする」ことを強調され、若手外科医は以前よりさらに多くの腹腔鏡下手術を行う機会が増え、さらに当直後のoff dutyの義務化など、まだまだ不十分な点も多くありますが、仕事とオフどちらも充実させられるようになってきております。

2013年度の手術数は前年度とほぼ同数で1369症例がありました。良性疾患の主なものではヘルニア222例、胆嚢摘出術190例、急性虫垂炎61例、悪性疾患では食道癌8例、胃癌145例、結腸癌145例、直腸癌76例、原発性肝癌11例、転移性肝癌13例、膵癌21例、乳癌131例となっております。今年度も腹腔鏡手術が手術の主体を占めており、ヘルニア、虫垂炎などの良性疾患から胃癌、大腸癌、肝臓癌、膵体尾部癌などの悪性疾患まで、手術のほとんどが鏡視下で行われています。この流れは外科だけでなく、婦人科、泌尿器科、耳鼻科、脳外科、整形外科など他科にも広がっており、現在は手術モニターや鏡視下デバイスの購入を病院全体が急ピッチで行っている状態です。また前年から引き続いて単孔式手術も積極的に進めており、整容面での評価を頂いております。

術後のフォローアップは従来通り横須賀市医師会、近隣病院と連携して地域連携パスを適用しており、胃癌、大腸癌、乳癌の早期患者はほぼ全症例紹介いただいた先

生方に見ていただくことが可能となっております。現在は胃癌、大腸癌術後の補助化学療法に対する地域連携パスも導入してきており、今後さらに地域の中核病院としての役割を果たしていきたいと考えております。

学術関連は、地域診療所の先生方、病理、内科、外科合同の消化器病カンファランスを定期的に行なっており、さらにそれを発展させた形で年2回横須賀消化器病セミナーを行っています。また、今年度も横須賀共済病院を筆頭とする学術集会総会の発表がさらに増えており、約60演題ありました。学会中の手術数の制限と人員不足がひとつの課題となりますが、若手外科医にとってよい刺激の場となるため、今後も両立していくことが必要と考えています。

今年度の診療体制も昨年と同様に、舛井部長、茂垣部長のもと平成10年から15年までの比較的若い中堅医師をオープンとした若手外科医中心の診療が行われています。今年の新規シニアレジデントは1名であり、医局からの派遣医師3名と合わせて卒後5年以下の外科医が7名と外科スタッフの半数を占めております。鏡視下手術が主流になってきており、若手外科医が多く手術を行うことができるようにするため、今年度は腹腔鏡下手術のシュミレーションセンターが開設され、タイムトライアルの実施や、内視鏡手術部門ができ、独自の内視鏡手術マニュアルの作成による教育システムの構築などが行われ、より多くの鏡視下手術が安全確実に行われるようになってきたことを実感しております。

今後も地域医療支援・がん診療連携拠点病院として、地域医療に貢献し、さらにより高水準の医療を提供できるよう精進していきたいと考えておりますので、益々のご指導、ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

(文責：高川 亮)

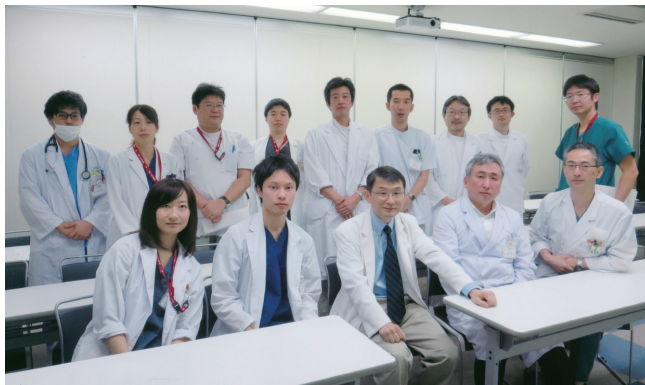
済生会横浜市南部病院

〒234-8503 横浜市港南区港南台 3-2-10

TEL 045-832-1111 FAX 045-832-8335

◆ 関連施設勤務者

副院長・外科部長 がん診療支援センター長	池 秀之 (昭.54)
副 院 長	福島 忠男 (昭.62)
	長谷川誠司 (平.2)
	長谷川 聡 (平.5)
外科医員	大田 洋平 (平.16)
	原田 郁 (平.20)



済生会横浜市南部病院は横浜市と済生会の官民共同で建設され1983年に開院した、27診療科500床の地域中核病院です。6月には開院30周年を迎えました。

急性期医療を担うとともに、「地域医療支援病院」として地域医療機関との病診連携も推進し、4月には神奈川県がん診療連携指定病院の指定を受け、がん診療支援センターを設置し、池先生がセンター長に任命されました。地域医療機関との合同カンファレンスや緩和ケア研修会等も行っています。また、市民公開講座や、南部病院コンサートとして各種のコンサートを行っています。ブラックジャックセミナーも3回目となり、港南区内の中学生33名が参加し、内視鏡トレーニング体験、手術縫合体験等を行い、今までにない体験ができたとの感想も頂くなど、地域に根差した活動を行っています。

当院の特徴は第二外科と第一外科の両方から派遣されている関連病院ということで、病院長は第一外科の今田先生、副院長は第二外科の池先生です。外科スタッフは第二外科からは福島、長谷川誠司、長谷川聡、大田、原

田郁の5名、第一外科からは平川、虫明、土田、渡辺、三箇山、岡本の6名、計11名で構成されており、昨年度に増して、両外科スタッフが一体となって定時手術・緊急手術に従事しています。平成25年の外科手術は1094件（全身麻酔1010件、局所麻酔84件）で昨年より若干減少しましたが、鏡視下手術が増加傾向で、大腸癌の約50%、胃癌の16.7%を腹腔鏡下で行いました。また、虫垂炎や鼠径ヘルニアにも積極的に腹腔鏡手術を行うようになり、若手スタッフの鏡視下手術の修練はもちろんのこと、研修医の先生方にも腹腔鏡下虫垂切除術を行ってもらう等の努力の甲斐もあり、来年度の研修に回って下さる先生も増加が見込まれています。

今後も地域医療支援病院として、また、がん診療連携指定病院として医療情報共有と高度医療の提供、がん診療体制の充実及び地域との連携活動を推進したいと思います。これからもご指導、ご鞭撻の程、よろしくお願い致します。

(文責：長谷川誠司)

横浜市立みなと赤十字病院

〒231-8682 横浜市中区新山下 3-12-1

TEL 045-628-6100 FAX 045-628-6101

◆ 関連施設勤務者

がんセンター長	阿部 哲夫 (昭.48)
緩和ケアセンター長	小尾 芳郎 (昭.57)
外科部長	杉田 光隆 (平.5)
消化器外科副部長	小野 秀高 (平.10)
消化器外科医員	諏訪 宏和 (平.15)
	矢澤 慶一 (平.20)
	大西 宙 (平.21)
	峯岸 裕蔵 (平.21)
乳腺外科部長	清水 大輔 (平.8)
乳腺外科医員	島 秀栄 (平.20)

横浜市立みなと赤十字病院は横浜市立港湾病院と横浜赤十字病院の機能を継承し、2005年4月に開院した公設民営化の病院です。

2013年4月から、消外科と乳腺外科は完全に分かれ、外科では杉田光隆、長田俊一、小野秀高、諏訪宏和、矢澤慶一、大西宙、峯岸裕蔵の7名が2チームに分かれ、乳腺外科では清水大輔、島秀栄が、緩和医療科では小尾芳郎が日々の診療にあたっています。本年度から阿部哲夫が定年退職となりましたが、非常勤として月曜～水曜に外来、手術のお手伝いをして頂いており、毎週水曜日には関沢クリニックから高橋徹也先生に来て頂いて大腸肛門疾患について外来・手術をお願いしております。2014年1月からは長田も退職となり、6名となってしまいました。スタッフの平均年齢も若くなり、人数も少なくなってしまう一方で、術者になる機会も多く、各々の臓器のスペシャリストが若手外科医の育成できる教育システムを充実すべく努力しております。

当院は、救急車の搬送が日本で1,2位を争うほど多く、基本的に救急搬送依頼を断らないことを基本としておりますので、当然ながら緊急手術が多く、絞扼性イレウス、消化管穿孔、急性虫垂炎などの緊急手術が多いのが特徴です。

高齢者や全身状態が不良な患者様が多いのも当院の特徴で、術後の集中管理に関しては、ICUの先生方にも協力していただきつつ、治療を行っております。

また、当院は平成2012年4月から地域がん診療連携拠点病院の指定を受け、毎週火曜日に消化管がんカンサーボードを、毎月第2水曜日に肝胆膵がんカンサーボードを開催しており、消化器内科、病理、放射線科の先生方も含めて、活発な討議がなされております。



腹腔鏡下手術も積極的に導入しており、上部消化管、下部消化管共に手術件数は年々増加しております。さらに、本年度はDa Vinciも入り、泌尿器科で先日1例目の手術が行われました。腹腔鏡下手術の導入が遅れた半面、手術機材は5mmのフレキシブルスコープ、AirSeal、録画装置などの最新のものが揃っております。

院内のハード面も充実しており、術前検査を全て組んでも1週間はかからずに終わる事ができ、MRIやPET/CT等の検査に関しては、他院からの予約を受け付けることも出来ます。

一方で、立地条件で交通の便が悪いというビハインドも否めず、地域の先生からの紹介もしてもらいづらいという事もありますが、地域連携パスを積極的に導入して、術後は紹介元の先生と連携してフォローアップをさせて頂いております。

地域の先生方との連携としては、年2回、横浜消化器疾患研究会や病院主催の医師会との合同研究会などを開催しており、交流を図っております。

外科の週間予定は、月曜日の朝に全体患者の経過のカンファレンス、火曜日の夜に術前カンファレンス、消化管がんカンサーボード、水曜日の朝に病棟師長とベットコントロールを含めたカンファレンス・抄読会、木曜日の朝に術後報告を行っており、火曜日以外は毎日手術日となっております。

医局はオープンな総合医局で、診療科で固まらないように配置されているため、他科との交流・意思疎通の良さが感じられます。

開院後9年目になり、当院も徐々に軌道に乗りつつありますが、さらなる地域医療に貢献すべく、質の高い医療を提供できるように精進する所存ですので、今後とも、益々のご指導、ご鞭撻のほど、何卒宜しくお願い申し上げます。

(文責：小野秀高)

横浜掖済会病院

〒231-0036 横浜市中区山田町 1-2

TEL 045-261-8191 FAX 045-261-8149

◆ 関連施設勤務者

外科部長 三浦 靖彦 (平.2)
医 長 森岡 大介 (平.5)
小林 敦士 (平.17)

平成25年4月から三浦靖彦部長、森岡大介、松本千鶴、小林敦夫の合計4人で診療に当たっていましたが、平成25年10月に恩義ある先生のご急逝に伴い松本がそちらのクリニックを引き継ぎ開業することとなり以後3人体制で診療を行っています。近隣で開業されている初山信義先生が主に乳腺の手術指導、三浦勝先生が主に腹腔鏡視下手術の指導、平成25年10月から松本が非常勤医師として来てくださっているの、基本的に一般外科で扱うすべての疾患のspecialistがそろっていると考えています。

手術症例数は胃癌20例、大腸癌60例前後を毎年こなしており、これらの手術は原則的に最も若い医局員に執刀

させる方針でやっています。若手医局員が手術経験を踏むにはよい環境ではないかと思います。また肝胆膵領域の癌に対する手術も年間20例前後あり、かつ、若手医局員はほぼ全例手術に手洗いで参加できるため、肝胆膵領域もある程度は経験でき、標準的な症例では執刀のチャンスも与えています。また化学療法、terminal careなど癌再発後の医療も積極的に行っていますので、oncologistとしてのtrainingも総合的に行えると思います。また当院最大のセールスポイントは比較的時間的ゆとりのある病院であるため、非常にきめ細かい医療、若手医局員の教育を行っていると自負しております。

当院のような病院の存在意義を薄れさせるような制度改革がなされている昨今ですが、近隣の大病院で診されない患者さんのbackupや近隣の開業医の先生が気軽に紹介できるという当院ならではのmeritを生かし、今後も努力を続けていきたいと思っています。

(文責：森岡大介)

NTT東日本関東病院

〒141-8625 東京都品川区東五反田 5-9-22

TEL 03-3448-6557 FAX 03-3448-6558

◆ 関連施設勤務者

主任医長・
化学療法センター長 古嶋 薫 (昭.54)
医 員 渡辺 一輝 (平.11)
開田 脩平 (平.20)

NTT東日本関東病院の近況報告です。人事では古嶋薫(S54卒)が化学療法センター長と外科主任医長を兼務して、12月には福浦より渡辺一輝(H11年卒)が着任し、引き続き開田脩平(H20年卒)が医員として勤務しており、医局からは3名の体制となっております。基本的にわれわれは下部消化管手術を中心に診療にあたっております。

病院内では、2月にJCI (Joint Commission International : 国際病院評価機構) の2度目の受審があります。JCIとは、米国の病院評価機構(JC)から発展し1989年から活動を行っている病院評価(国際版)です。2011年にNTT



東日本関東病院はJCIを受審し、日本で2番目、東京で初の認証取得をしており、今回はその継続認証を目指しております。また、4月から、DPC病院の仲間入りをします。そして、院内の設備においても、2013年にはHCU病棟も新設され、急性期医療に力を入れるとともに、2014年には内視鏡センターも拡張される計画となっているなど、病院からは改革の意識を感じます。

臨床面では、手術症例の年次推移に大きな変化はあり

ませんでした。渡辺の着任した12月から下部消化管については腹腔鏡手術の適応を結腸進行癌と直腸癌にも拡大しており、2014年度の腹腔鏡手術の症例割合の増加が見込まれます。当院の特徴は、消化器内科での内視鏡治療に力をいれていることもあり、院内からの紹介症例数が多いことです。逆に考えると治療選択の意識の高い患者が多いとも考えられます。また、近隣には有力な病院が多く、病院の特色を出さなければ、容易に患者は他病院へ流れていくことが予想されることから、魅力的な診療体制の整備とその発信が急務であると考えます。そのため、本年度は院内クリティカルパスの変更や近隣開業医との連携パス使用などで診療体制を整備していくとともに、積極的に単孔式手術や直腸癌の術前化学療法を導入して近隣病院との差別化をはかっていく年と位置付けております。またもう一つの課題として教育があります。腹腔鏡手術の割合が多くなり、若手に手術症例が回ら



いという悩みが多く聞かれます。魅力を感じない研修医はどうしても外科から遠ざかる傾向にあります。NTT東日本関東病院には有望な初期・後期研修医が多く働いており、積極的に教育に力をいれて、将来の（当医局の）外科医を増やしていくよう切磋琢磨する予定です。

（文責：渡辺一輝）

長津田厚生総合病院

〒226-0027 横浜市緑区長津田 4-23-1

TEL 045-981-1201 FAX 045-983-3647

◆ 関連施設勤務者

外科部長	簾田康一郎（昭.60）
医 員	三邊 大介（平.2）

長津田厚生総合病院は、日ノ出町に昭和22年に診療所として開設し昭和24年に病院に転換した日ノ出町厚生病院が前身です。その後横浜市北部の開発に伴い昭和30年に長津田厚生病院が開設され、昭和43年には拠点を日の出町から長津田に移し、現在の長津田厚生総合病院としての診療が始まりました。

病院規模は許可病床数が190床で、そのうち急性期一般病床が170床、療養型病床が20床です。健診センターや人工透析センターも併設されており、地域に溶け込んだ病院として機能しています。また今年は戸田院長の専門である循環器内科が心臓血管センターとして再編成され、新しく心臓カテーテル検査が始まりました。さらに4月から消化器病センターが開設され、内科と外科の垣根を取り払い消化器疾患に悩む患者様の視点での治療体制を確立するよう努めています。5月には内視鏡検査室が新しくなり6月には経鼻内視鏡が導入され、9月からは外科系病棟が改築されて内装が新しくなるなど病院の刷



新が進んでいます。

外科は外科部長の簾田と、大田に代わり三邊が4月から赴任し診療を行っています。2人体制なのは変わらないのですが、腹腔鏡手術を積極的に行うこととし、胆嚢摘出術はもちろん胃癌や大腸癌は基本的に腹腔鏡下に手術しています。また虫垂切除術も単孔式腹腔鏡下に行うことにしました。ただ胃や大腸の腹腔鏡手術の際にはどうしてもscopistが必要となるため、その都度大学に医師の派遣を依頼することになります。ご迷惑をかけて大変申し訳ありませんが、どうぞよろしくお願い致します。症例数はまだまだ十分とは言えませんが、昨年とほぼ同じ

134例の手術を施行しました。内訳は鼠径ヘルニア18例、虫垂切除術21例、胆嚢摘出術33例、結腸・直腸癌切除術14例（うち腹腔鏡は7例）、胃癌切除術4例（うち腹腔鏡は3例）などです。臍頭十二指腸切除術や肝区域切除術も1例ずつですが施行しています。多くの中小規模の病院と同じく高齢で合併症のある症例が多いのですが、今後も積極的に手術をこなしていきたいと考えております。

私立病院の宿命ですが、私たちは絶えず集患に知恵を

絞っており、毎月病診連携講演会を開いて開業医の先生をお呼びしての講演会と病院の宣伝を行っています。そして平成26年からはいよいよ病院の全面改築が始まります。新病院が完成すれば患者数もぐんと増加するものと期待しています。このような動きの中、医療の質の向上と当院のさらなる発展にこれからも尽力してまいりたいと思っています。

（文責：簾田康一郎）

済生会若草病院

〒236-8653 横浜市金沢区平潟町 12-1
TEL 045-781-8811 FAX 045-784-5443

◆ 関連施設勤務者

診療部長・外科部長 内視鏡センター長	佐藤 靖郎（昭.63）
外科医長	吉田 謙一（平.8）
医 員	山口 直孝（平.13）

当院の前身は西区岡野町にあった恩賜財団済生会神奈川県病院（大正2年9月設立）で、昭和20年の横浜大空襲により焼失後、昭和21年4月15日金沢区平潟町の旧海軍釜利谷工員宿舎を仮病院として診療を再開し、これが現在の済生会若草病院に至っているという歴史のある病院です。

現在は、13の診療科と一般床165床、療養病床34床、計199床の病床を有し、急性・慢性疾患を問わず対応できる地域密着型病院として稼働しています。当院外科が横浜市大消化器腫瘍外科からの派遣となり本年で7年目となりますが、佐藤靖郎外科部長の御指導のもと吉田謙一と、前任の木村 準先生の引き継ぎとして昨年4月から山口直孝先生が赴任され3人体制で外科の診療にあたっています。

手術件数は佐藤部長赴任後より年々増加しており、昨年は3人の医局スタッフで約280症例を経験しました。その一因に鼠径ヘルニアセンター、内視鏡センターの開設があり多くの患者さんが当院のパンフレットを持参して来院されています。また昨年は佐藤部長が内視鏡センターのセンター長に就任され、内視鏡件数、消化器癌の診断件数は増加傾向です。病院内外の環境整備も逐次改善中で、一昨年度より病院内外装の一新、院内照明のすべてのLED化が行われ、本年度は更なる来院患者の増加が見込まれます。



当院は近隣の病院、開業医との間に緊密な関係を構築する事にも力を注いでおり、昨年は横浜市大病院との間に癌連携病院の契約が交わされ、療養に時間を要する症例、入院化学療法を希望する症例、癌の術後再発・非切除で緩和医療を要する症例など大学病院では対応困難な症例に対して積極的に受け入れを行っています。手術症例に於いても胆石症例、ヘルニア症例、大学病院では長期間手術待ちが予測される悪性腫瘍症例などに対しても柔軟に対応しています。神奈川県立循環器呼吸器センター、横浜南共済病院との連携では近接した地理性、異なる専門性を生かして、地域医療の充実にも力を注いでおり、近隣の開業医の先生方からは地域連携癌センターの早期開設を要望されている状態で、我々全員一丸となって鋭意努力中です。

平成26年はヘルニアセンター、内視鏡センターの充実、横浜市大病院との癌連携病院としての機能向上も含め、済生会若草病院、合わせて外科にとって更なる飛躍の年であるよう、診療の質の向上と機能拡充とを目指しておりますので、今後とも御指導、御鞭撻の程、宜しく御願い申し上げます。

（文責：吉田謙一）

横浜船員保険病院

〒240-8585 横浜市保土ヶ谷区釜台町 43-1
TEL 045-331-1251 FAX 045-331-0864

◆ 関連施設勤務者

副 院 長	長堀 優 (昭.58)
医 長	上向 伸幸 (平.6)
医 員	窪田 徹 (昭.61)
	小澤真由美 (平.15)
	和田 朋子 (平.20)
	堀井 伸利 (平.21)

財団法人船員保険会 横浜船員保険病院は昭和30年に船員の結核治療病院として国費で設立され、今年で病院設立59年目となります。今年度で船員保険会が解散となり、新しく全国57病院が参加しての地域医療推進機構（JCHO）に所属し病院名も新たに横浜保土ヶ谷中央病院となります。病院規模は変わらず許可病床数260床（稼働病床数231）で患者さんは主に近隣の保土ヶ谷区、旭区、神奈川区の方が多く、これまで同様に地域に密着した医療・健診・福祉の総合施設として機能していく予定です。

本年度の外科の体制としては小林敦夫（H17年）、中島隆宏（帝京溝の口H19年）、高橋智昭（H22年）が異動となり新たに第二外科から窪田徹（S61年）、小澤真由美（嘱託医H15年）、和田朋子（H20年）、堀井伸利（H21年）の派遣がありました。また以前当院で血管外科治療を担当していた齋藤健人が戻ってきてくれて血管外科再開となりました。

現在の診療体制は窪田先生が病欠のため、長堀優副院長以下、平野進（北里大H2年）、上向伸幸（H6年）、齋藤健人（H7年）、小澤真由美（H15年）、和田朋子（H20年）、堀井伸利（H21年）の7名で診療にあたっております。小澤先生はお子様がいらしてママさん外科医のモデルになるよう、少し負担を減らしてとの考えから嘱託医としての勤務ですが、時間内（たまに時間外まで）は普通に外科医してくれており大変助かっています。ほか、例年同様に隔週土曜日、みなと赤十字病院・乳腺外科の清水大輔先生に乳腺専門外来を担当していただいております。また乳癌手術のご指導もいただいております。横浜市大・形成外科には形成外来を担当していただいております。佐武



先生には乳癌術後の形成手術をお願いし週2-3例の手術を行っています。外科病床は40床、対象疾患は消化器癌が中心ですが呼吸器疾患（気胸、肺転移）、血管外科（AAA、ASO、下肢Varixなど）の治療も行っております。

昨年手術総数は438件でした。そのうち緊急手術は94件でした。総数はここ6年で年々増加し2割増となりました。ほとんどの手術は若手3人が執刀しており、同門会誌をみますと当院の若手1人あたりの手術数は他病院と比較して劣らない経験数ではないかと考えております。ただかなりの高齢者、かなりの進行癌が多く術後管理に難渋することよくあります。

当院の特色としての消化器病センター（消化器内科医+消化器外科医）も昨年同様に充実した診療を行っており紹介患者数も増加傾向です。地域の先生方との連携を緊密にするため開業された先生方と共に消化器病連携セミナーを年に1回開催し、当院の消化器病センターの診療内容を紹介し交流を深めております。

例年同様、H25-9月には市民公開講座を保土ヶ谷公会堂にて開催し好評を得ました。

第二外科の関連施設となり7年目ですが新病院名を早く覚えていただけるようこれまで以上に頑張りたいと思います。今後も周辺地域の医療機関との連携を深め、一層地域医療に貢献していきたいと考えております。益々のご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

（文責：上向伸幸）

松島病院大腸肛門病センター

〒220-0041 横浜市西区戸部本町 19-11
TEL 045-231-7311 FAX 045-321-7330

◆ 関連施設勤務者

医 員 長谷川信吾 (昭.62)

今年で松島病院は創立90年を迎えます。11月には松島誠院長が会長を務める日本大腸肛門病学会学術集会を遠藤格教授の副会長のもと横浜で開催させていただきました。医局の関連病院で主催されるのは平成14年に福島恒男先生が会長を務めた横浜市民病院以来となります。今回も旧第2外科医局の先生方には学会への参加とご協力をお願いしたいと存じます。

さて、最近松島病院で診療を行っている従来の痔核や痔瘻を患い受診する患者のほかに、肛門のしまりを気にして来院する患者をみます。高齢者社会であることか

ら身体的に肛門のしまりも低下し、便の漏れが気になってようであります。早い方では60歳後半からそのような訴えをすることがあります。そのような患者に対して当院では肛門内圧検査を行い、実際に肛門管静止圧・収縮圧を測定したうえで治療を行っています。また、他施設から直腸癌の術前に肛門機能評価を行ってほしいという依頼も時に見受けられます。このような社会的要望から当院としては肛門機能検査の充実を考えています。従来の検査機器を新調するとともに他の直腸肛門機能検査機器の購入も計画しています。諸先生方には痔疾患だけでなく、肛門機能障害疾患に対する診療を行う病院として評価していただけるように努力して参りますので、今後とも宜しくお願い申し上げます。

(文責：長谷川信吾)

辻仲病院 柏の葉

〒277-0871 柏市若葉 178-2 柏の葉キャンパス 148 街区 6
TEL 04-7137-3737 FAX 04-7137-3738

◆ 関連施設勤務者

副 院 長 浜畑 幸宏 (昭.59)

ことしも年報を投稿する時期がやってきましたが皆様はいかがお過ごしでしょうか。当院はつくばエクスプレス柏の葉キャンパス駅より徒歩3分程度のところに位置しております。関連施設は我孫子にある東葛辻仲病院、アルト新橋クリニック、柏クリニック、つくばクリニックと現在5施設があります。柏の葉では主に全身麻酔を要する手術を行っています。疾患としては肛門病疾患がやはりもっとも多いです。ほかには骨盤内臓器の疾患を行っており外科では大腸、直腸悪性疾患、直腸脱、直腸ろう、IBD、排便機能障害など様々な疾患を行っております。

婦人科では良性疾患の腹腔鏡下手術、泌尿器科では前立腺肥大などの手術を行っております。当院の特徴の一つに骨盤臓器脱の治療があります。TVMという手術方法で難関多数行っております。婦人科、泌尿器科、外科とコラボレーションで診察、治療しております。内視鏡も1日70件程度行っており、去年からカプセル内視鏡も開始し半年で40例ほどになりました。だいぶ変わった症例も多数経験しました。

柏の葉駅周辺は開発が進み施設が増えホテルもできます。周囲にはサッカーの柏スタジアムがあり、東大キャンパス、千葉大キャンパス、国立がんセンター東病院などがあります。常磐道柏インターからも5分程度のところ です。

これからもよろしくお願いします。

(文責：浜畑幸弘)

藤沢湘南台病院

〒252-0802 藤沢市高倉 2345

TEL 0466-44-1451 FAX 0466-44-6771

◆ 関連施設勤務者

救急部 部長 小泉 泰裕 (昭.61)

藤沢湘南台病院の外科は、旧第1外科から院長、副院長2名はじめスタッフ計8名で診療にあたっています。また、旧第2外科からは、小泉と非常勤で鈴木紳祐先生が診療しております。

現在、小泉が救急診療部門の責任者として、当院の救急患者の初期診療とそれに続く入院治療を行っております。特に消化器系の救急疾患や急性腹症等に関しては、消化器科や外科と協力して率先して初期診療を行っており、また、緊急手術にも可能な限り対応しております。

さらには、救急部門だけでなく、外科診療にも携わっており、外科カンファレンスへの出席や手術への参加も積極的に行っております。

また、鈴木紳祐先生は、肛門疾患の手術と大腸内視鏡検査を中心に行っております。

当院の外科手術の特徴は、なんと言っても肛門疾患の手術件数が非常に多いことにあります。さらに消化器悪性疾患も積極的に手術を行い、腹腔鏡手術も行っています。また、呼吸器外科の手術件数も比較的多く、胸腔鏡による気胸手術や肺癌の手術も行われています。

今後は、院長の意向もあり旧第2外科と旧第1外科で、外科診療を充実させたいと考えております。

(文責：小泉泰裕)

港南台病院

〒234-8506 横浜市港南区港南台 2-7-41

TEL 045-831-8181 FAX 045-831-8281

◆ 関連施設勤務者

診療部長 大塚 裕一 (平.8)

港南台病院は、このたび、同門会会長に就任された神谷周明院長により1979年に設立された病院で、今年で35周年を迎えています。

現在までに医局関連病院として多くの先生が常勤医、非常勤医として勤務されてきました。2013年4月より大塚が赴任しております。医局からは、松山隆生先生、熊本宜文先生に外来を担当していただいております。また、若手の多くの先生方に当直業務を分担していただいております。地域に根差す病院として、在宅診療連携病院としての機能を果たしながら、横浜市立大学附属病院、横浜市立大学市民総合医療センター、済生会横浜市南部病院をはじめとする関連病院から多くの患者さんをご紹介いただいております。

診療内容としては、局所麻酔下の開腹胃瘻造設などの小手術や、抗癌剤治療もおこなってはいますが、当院の強みは緩和医療に対する積極的な取り組みではないかと思っています。

まず、医療スタッフの充実。常勤医師に緩和ケアの診

療経験があり、消化器、呼吸器（当院副院長や院長ご子息の専門は呼吸器内科です）、乳腺など各臓器の腫瘍診療に精通した医師がいること。緩和ケアを進めるに当たりコンサルトすることのある整形外科医、泌尿器科医の非常勤医による介入が可能であること。形成外科非常勤医による褥瘡ケア、さらに緩和ケアの中で理学療法の導入ができることが挙げられます。

次に保険診療や薬剤使用に関し、DPC病院でないことの強みとして、症状緩和に必要と考えられる薬剤が、必要な時に使用できること。抗癌剤治療と並行した緩和治療が容易に可能であること。優れた新規薬剤（たとえばイーフェンバカルなど）が発売された際に、採用までのタイムラグがほとんどないことがあります。

さらに、患者さん、ご家族が望んだ場所で過ごすために、療養先についての様々な提案が可能であることがあります。一つの組織的な医療法人として、港南台病院での入院からはじまり、疾患や認知症の程度によっては、老健施設「ひとりざわ」の入所。希望によっては、在宅の看取りも含めた訪問診療、在宅緩和医療の提供。また、平成26年春には有料老人ホーム「ハートウォーム港南台」がオープン予定で、およそ想定しうるさまざまな療養形態のご要望に対応できる施設が整っております。

今後も診療報酬の改定などにぶらされることなく、一人一人の患者さん、ご家族が望んでいることを丁寧にお伺いしながら、それらが実現される診療、環境の提供に努

めてまいりたいと思います。今後ともよろしくお願い申し上げます。

(文責：大塚裕一)

荒川外科肛門科医院

〒116-0002 東京都荒川区荒川 4-3-11

TEL 03-3806-8213 FAX 03-3803-7224

◆ 関連施設勤務者

院長	松田 好雄 (昭.43)
副院長	松田 大助 (平.11)
	大高 京子 (昭.56)
医師	大澤 晃弘 (平.12)

有床19床。痔疾患中心の大腸肛門外科を専門に消化管中心の診療。一般内科・外科 消化器内視鏡検査センター併設・6階ラウンジ新築開設

日本大腸肛門病学会の大腸肛門病認定施設
日本消化器内視鏡学会の指導施設

昭和60年開業から平成25年まで30年間の累積新患受診数は79091数。

消化管内視鏡検査センターの改築直後のH25年では、上部消化管内視鏡検査数1766件、下部消化管内視鏡検査数3731件、大腸ポリペクトミー893件。発見進行大腸がん47例、発見胃がん9例、発見食道がん2例。腹部超音波検査1161例。

手術は2013から2014年では、ALTA治療363例、痔核根治手術421例、裂肛根治手術92例、痔ろう根治手術226



例、直腸脱33例であった。ALTA治療を望む患者さんが増え、ALTAを活かした手術も増え、入院日数も短縮傾向である。その他の手術は33例。

随時、痔核手術・消化管内視鏡検査の研修出来るよう、肛門科医の若手医師の育成に一役かっている。現在は、東京医大・山口大医の先生方がおみえになっている。

新年度も、職員一同一丸となって、専門医療中心に地域に愛される医療機関として取り組んでいきたい。

同門会の諸先生方の御理解と御指導を、何卒宜しくお願い致します。

(文責：大高京子)



関連施設勤務者

●独立行政法人国立病院機構横浜医療センター

〒245-8575 横浜市戸塚区原宿3-60-2
TEL 045-851-2621 FAX 045-853-8359

統括診療部長 関戸 仁 (昭.58)
外科医長 松田 悟郎 (平.5)
外科医師 齊藤 修治 (平.5) 清水 哲也 (平.9) 稲垣 里紗 (平.21)
杉政奈津子 (平.22)
外科レジデント 松木 裕輝 (平.23)

●伊東市民病院

〒414-0055 伊東市岡196-1
TEL 0557-37-2626 FAX 0557-35-0631

副病院長・外科部長 佐藤 芳樹 (昭.59)
副診療科長・外科科長 神谷 紀之 (平.4)
医 師 高橋 直行 (平.20)

●横浜州市立市民病院

〒240-0062 横浜市保土ヶ谷区岡沢町56
TEL 045-331-1961 FAX 045-332-5599

副病院長 杉田 昭 (昭.54)
消化器外科担当部長 高橋 正純 (昭.58)
乳腺外科長・癌検診センター診断担当部長 石山 暁 (昭.58)
I B D科長 小金井一隆 (昭.61) 消化器外科長 望月 康久 (昭.62)
検査部長 千葉 泰彦 (平.2) 乳腺外科医長 鬼頭 礼子 (平.9)
I B D副医長 辰巳 健志 (平.12) 医 員 中川 和也 (平.17)
後期研修医 朴 峻 (平.23)

●藤沢市民病院

〒251-8550 藤沢市藤沢2-6-1
TEL 0466-25-3111 FAX 0466-25-3545

院 長 城戸 泰洋 (昭.50)
副 院 長 仲野 明 (昭.53)
診療部緩和ケア科主任部長 江口 和哉 (昭.58)
呼吸器外科部長 吉本 昇 (平.5)
外科専門医長 山岸 茂 (平.7) 樺山 将士 (平.14)
外科主任医師 泉澤 祐介 (平.16) 原田 真吾 (平.20)
外科医員 笠原 康平 (平.21) 山本 淳 (平.23)

●横須賀州市立市民病院

〒240-0195 横須賀市長坂1-3-2
TEL 0466-25-3111 FAX 0466-25-3545

管理者・病院長 久保 章 (昭.51)
副病院長・外科診療部長 亀田久仁郎 (昭.63)
外科科長 長嶺弘太郎 (平.5)
医 員 宮本 洋 (平.17) 森 康一 (平.21) 三宅 益代 (平.21)

●横浜労災病院

〒222-0036 横浜市港北区小机町3211
TEL 045-474-8111 FAX 045-474-8323

乳腺外科部長 千島 隆司 (平.3)
医 員 山本 晋也 (平.16) 足立 祥子 (平.22)

●横須賀共済病院

〒238-8558 横須賀市米ヶ浜通1-16
TEL 046-822-2710 FAX 046-825-2103

院長代理 長堀 薫 (昭.53)
外科部長 舩井 秀宣 (昭.62)
医 長 盛田 知幸 (平.10) 南 裕太 (平.13)
医 員 渡邊 純 (平.13) 高川 亮 (平.15) 本間 祐樹 (平.16)
後藤 晃紀 (平.20) 中山 岳龍 (平.20) 久保 博一 (平.21)
遠藤 千穂 (平.22)

●済生会横浜南部病院

〒234-8503 横浜市港南区港南台3-2-10
TEL 045-832-1111 FAX 045-832-8335

名誉院長 竹村 浩 (昭.34)
副院長・外科部長・がん診療支援センター長 池 秀之 (昭.54)
副 部 長 福島 忠男 (昭.62) 長谷川誠司 (平.2) 長谷川 聡 (平.5)
医 員 大田 洋平 (平.16) 原田 郁 (平.20)

●横浜みなと赤十字病院

〒231-8682 横浜市中区新山下3-12-1
TEL 045-628-6100 FAX 045-628-6101

がんセンター長 阿部 哲夫 (昭.48)
緩和ケアセンター長 小尾 芳郎 (昭.57)
外科部長 杉田 光隆 (平.5)
消化器外科副部長 小野 秀高 (平.10)
消化器外科医員 諏訪 宏和 (平.15) 矢澤 慶一 (平.20) 大西 宙 (平.21)
峯岸 裕蔵 (平.21)
乳腺外科部長 清水 大輔 (平.8) 乳腺外科医員 島 秀栄 (平.20)

●横浜掖済会病院

〒231-0036 横浜市中区山田町1-2
TEL 045-261-8191 FAX 045-261-8149

外科部長 三浦 靖彦 (平.2)
医 長 森岡 大介 (平.5) 小林 敦士 (平.17)

●NTT東日本関東病院

〒141-8625 東京都品川区東五反田5-9-22
TEL 03-3448-6557 FAX 03-3448-6558

主任医長・化学療法センター長 古嶋 薫 (昭.54)
医 員 渡辺 一輝 (平.11) 開田 脩平 (平.20)

●長津田厚生総合病院

〒226-0027 横浜市緑区長津田4-23-1
TEL 045-981-1201 FAX 045-981-1205

外科部長 簾田康一郎 (昭.60) 医 員 三辺 大介 (平.2)

●済生会若草病院

〒236-8653 横浜市金沢区平潟町12-1
TEL 045-781-8811 FAX 045-784-5443

副診療部長・外科部長 佐藤 靖郎 (昭.62)
外科医長 吉田 謙一 (平.8) 医 員 山口 直孝 (平.13)

●横浜船員保険病院

〒240-8585 横浜市保土ヶ谷区釜台町43-1
TEL 045-331-1251 FAX 045-331-0864

副 院 長 長堀 優 (昭.58)
医 長 上向 伸幸 (平.6)
医 員 窪田 徹 (昭.61) 小澤真由美 (平.15) 和田 朋子 (平.20)
堀井 伸利 (平.21)

●湘南記念病院 かまくら乳がんセンター

〒248-0027 鎌倉市笛田2-2-60
TEL 0467-32-3456 FAX 0467-32-6363

かまくら乳がんセンター長 土井 卓子 (昭.59) 医 員 太田 郁子 (平.14)

●神奈川県立こども医療センター

〒232-0066 横浜市南区六ツ川2-138-4
TEL 045-711-2351 FAX 045-721-3324

医 員 浅野 史雄 (平.17)

●育生会横浜病院

〒240-0025 横浜市保土ヶ谷区狩場町200-7
TEL 045-712-9921 FAX 045-712-9926

院 長 塩谷 陽介 (昭.36)

●松島病院

〒220-0041 横浜市西区戸部本町19-11
TEL 045-231-7311 FAX 045-321-7330

医 員 長谷川信吾 (昭.62)

●松島ランドマーククリニック

〒220-8107 横浜市西区みなとみらい2-2-1-1 7F
TEL 045-222-5577 FAX 045-222-5580

院 長 松村奈緒美 (平.5)

●松島クリニック

〒220-0045 横浜市西区伊勢町3-138
TEL 045-241-7311 FAX 045-231-1581

医 員 森岡 香 (平.9)

●東葛辻仲病院

〒270-1168 我孫子市根戸堀尻946-1
TEL 0471-84-9000 FAX 0471-84-9854

院 長 松尾 恵五 (昭.59)

●辻仲病院柏の葉

〒277-0871 柏市若柴178-2 柏の葉キャンパス148街区6
TEL 04-7137-3737 FAX 04-7137-3738

副 院 長 浜畑 幸宏 (昭.59)

●医療法人入間川病院

〒350-1307 狭山市祇園17-2
TEL 04-2958-6111 FAX 04-2956-4949

副 院 長 木内幸之助 (平.4)

●藤沢湘南台病院

〒252-0802 藤沢市高倉2345
TEL 0466-44-1451 FAX 0466-44-6771

救急部 部長 小泉 泰裕 (昭.61)

●宮古島徳洲会病院

〒906-0014 沖縄県平良市松原552-1
TEL 0980-73-1100 FAX 0980-73-1900

副 院 長 増成 秀樹 (平.7)

●関沢クリニック

〒236-0053 横浜市金沢区能見台通8-28
TEL 045-786-8852 FAX 045-786-9293

医 員 高橋 徹也 (平.2) 山本 晴美 (平.10)

●湘南東部総合病院 総合診療科

〒253-0083 茅ヶ崎市西久保500
TEL 0467-83-9111 FAX 0467-83-9114

荒井 勝彦 (昭.62)

●熊本赤十字病院

〒861-8520 熊本市長嶺南2-1-1
TEL 096-384-2111 FAX 096-384-3939

医 員 中畠 雅之 (平.14)

●聖マリアンナ医科大学

〒216-8511 川崎市宮前区菅生2-16-1
TEL 044-977-8111 FAX 044-975-1400

大学病院乳腺・内分泌外科医長 小島 康幸 (平.13)

●港南台病院

〒234-8506 横浜市港南区港南台2-7-41
TEL 045-831-8181 FAX 045-831-8281

診療部長 大塚 裕一 (平.8)

●帝京大学ちば総合医療センター 外科

〒299-0111 千葉県市原市姉崎3426-3
TEL 0436-62-1211

教 授 田中 邦哉 (平.1)
講 師 松尾 憲一 (平.6)
助 手 村上 崇 (平.18)